

会 議 記 録		記録者	担当チーム
会 議 名	令和6年度未来の養父市を語るタウンミーティング		
期 日	令和6年7月1日（月）19：30～21：40		
場 所	宿南ふれあい倶楽部		
出席者	市民	16名	
	市役所	広瀬市長、米田教育長、坂本危機管理監、井上理事兼市民生活部長、世登健康福祉部長、柳川まち整備部長	
		（事務局）経営政策・国家戦略特区課 藤原、栗田、北添	
	担当チーム	宿南、西村、富田、桑原	
<p>「テーマ1 社会的処方について」</p> <p>社会的処方について、どのような施策を展開するのか。 また、住民はどのように関わることになるのか、わかりやすく説明してほしい。</p> <p><b>【健康福祉部長による説明】</b></p> <p>市民：社会的処方とは、市役所に行ってどうこうではなく、日常的な対話から生まれるものと認識している。気軽なものとして親しまれやすい施策を考えてほしい。</p> <p>市民：社会的処方についての出前講座があるという話を聞いたが、出席者10人以上という制約がある。</p> <p>市長：おっしゃるとおりで日常的な対話が社会的処方につながる。出前講座については、10人というのはあくまでも目安であり、臨機応変に対応する。</p> <p>「市政全般についての意見交換」</p> <p>市民：区内の防火水槽の敷地が高齢者や子供たちの交流の場となっている。地区としては交流の場としてイスや遊具等の設置も考えたいが、どうか？</p> <p>危機管理監：防火水槽は消火活動を目的に作っているもの。本来の目的に支障がない範囲であれば構わないと考えるが、事故やケガがないように注意いただきたい。</p> <p>市民：自治協でもつながりの場を設けているが、様々な要因（PR不足、地域の移動手段がない、参加しにくい）から参加者が振るわない。</p> <p>健康福祉部長：地域等とのつながりもなく参加しようとしなない方にも、なるべく声かけ、気にかけていることを伝えるのが重要でないかと考える。場合によってはコミュニティナース等に相談していただいてもいいと思う。</p> <p>まち整備部長：公共交通は人口減少により縮小傾向にある。しかし、なくてはなら</p>			

ないものである。今後、きめ細かなサービスが求められると認識している。養父市では「やぶくる」のエリア拡大や建屋の自家用有償運行バスにデマンド方式を取り入れる等して利用者の増加に結び付けている。宿南でも自家用有償運行バスを運行しているが、地域の総意で望むということであれば、前向きにデマンド方式を検討したい。

市民：リンクワーカーやコミュニティナースはそれなりに目星がついているのか？

健康福祉部長：市ではそれらの研修を実施しており、受講者には缶バッジを配布している。これまで200人弱（看護師、社会福祉協議会職員、民生委員）が研修を修了している。

市民：宿南地区を社会的処方モデル地区になればと思った。その中でコミュニティコーピングを実施したい。

市長：非常にありがたい意見である。モデル地区とするためには、自治協が母体となり取り組んでいただけることが必要である。

健康福祉部長：コミュニティコーピングはカードを活用して地域課題を解決するゲームだが、そのようなものを活用しながら市民研修を行っていきたい。社会的処方を推進する上でモデル地区の選定は非常に心強い。

市民：学校在り方検討会の報告も受けたが、宿南では小学校の存続という大きな問題がある。しかし、人口減少は進行しており、そのネックが移住定住、住むところがない。という問題であると考えている。

市民：宿南小学校では運動会で一輪車を披露している。ぜひ皆さんにも見に来てもらいたい。ケーブルテレビで放送してもらえるとありがたい。日本全体で少子高齢化が進んでおり、養父市では更に深刻化している。今後の事象に対しての対応やビジョンを示してほしい。わくわくするような政策を打ち出してほしい。また、他市町との連携も密にしていくべきでは？

市長：養父市は計算上、2090年には消滅都市と言われている。人口減少を受け入れながら、これまで作り上げたものや残さなければならないものを維持していくにはどれくらいの人口が必要か？なかなか、予測がつかない。国では人口減を受け入れながら、イノベーションを進め、GDPを確保していく考えである。これまでは子供たちを外に出す教育をしてきた。しかし、それが少子化、過疎化の構造を作ることとなってしまった。養父市は都市に流出した人口を取り戻すため、地方創生に取り組んできた。まだ、成果は出ていないが、着実に実を結びつつある。市では様々な政策を進めているが、元を辿れば少子化対策につながる。先ほどの社会的処方モデル地区は素晴らしい提案を頂いた。人口減少を市民もみな自分ごととして捉えてほしい。

まち整備部長：移住定住についてだが、人口問題はこれをすれば人口が増えるとい  
一発逆転の施策はない。様々な施策からトータルで結果に結びつくと考えている。  
住宅政策の観点で言うと市営住宅の入居率は67%、28団地ある中で19団地は募集  
停止をしている。住宅政策一つにアプローチして受け皿を作っても人口増につな  
がるとは考えにくい。まち整備部では今年度から予算を投入し、民間集合住宅を建築  
する事業者に対する支援や八鹿氷ノ山 IC の面整備に向けた計画づくりや養父市場の  
旧グンゼ跡地の土地利用、自動運転バスの実証実験を予定している。

市民：地域モビリティは0~100才、皆の問題。期待する。

教育長：宿南は児童数減で1人や2人のクラスが出てきており、厳しい状況であ  
る。しかし、在り方検討会で議論した結果、学舎制という手法がある。1~4年生ま  
では宿南小学校で学び、5~6年生は近隣の児童数の多い学校で学ぶという制度であ  
る。また、学舎制は地域とのつながりを深める非常に魅力のある制度であると考え  
ている。

市民：いつ頃に学校の存続について方向性を決める予定か？

教育長：期限等はない。保護者や地域と十分話し合った上で、方向性を見出した  
い。

市民：学校の集約化についてはどうお考えか？

教育長：養父市全体で出生数は100人程度。今の状態を維持していくのは厳しい状  
況だが、全体の議論で検討したい。

市長：これまで様々な学校で統廃合をしてきたが、学校があるところは学校を中心  
に地域としての活力があり、学校を失くすと力を失う。これ以上、統廃合はしたく  
ない。また、宿南は池田草庵先生のふるさと。そこから校舎を失くすのは惜しい。

市民：学校は統合して欲しいという意見がある一方でこども園は地域に近いほうが  
良いという意見がある。公立より私立の方が国費の率が良いと聞いたことがある。

市長：公立も私立も国費はあまり変わらないと考える。今後、統合よりこども園  
の経営の在り方（公立 or 私立）を検討していきたい。

市民：学舎制は地域とのつながり深める制度とのことだが、具体的にどのようなこ  
とか。今と何が違うのか。

教育長：教室に空きができるため、子供はもちろんのこと地域の大人たちの学びの  
場としても活用が検討できる。

市民：他市町で学舎制の実績はある？

教育長：文部科学省に問合せしているところである。

市民：卒業生のふるさとのつながりの場となることを期待する。